



# 小樽市【北海道】 歴史文化基本構想

■策定年度：平成31年3月 ■人口：115,621人 ■市域面積：244km<sup>2</sup>  
■担当課：小樽市教育委員会教育部生涯学習課（平成31年3月現在）



小樽市には、縄文時代以来の歴史・豊かな自然・近世近代の移住者が伝えた風習・まちなみを形成する歴史的建造物など、多様な暮らしの背景を持つ文化遺産が残されている。本構想では、まちのあゆみを物語る歴史文化・自然に関する文化遺産の情報を可能な限り収集し「小樽文化遺産」と名付けた。それらを「見出し、守り、伝え、使う」ことを基本理念としている。

## 5 歴史文化を表す つのキーワード

ニシン、港と鉄道、経済都市、「民」の力、  
繁栄・衰退・再生の歴史

### 課題

- ・文化遺産の滅失や散逸の加速化
- ・文化遺産の保存管理・活用を推進するための体制整備

### 保存活用方針

- ・文化遺産の多様な価値を見出し、特性に沿った保存と活用を図る
- ・文化遺産を支える人の輪を広げる
- ・文化遺産を活かしたまちづくり

## 保存活用のための取り組み

### 見出す－文化遺産の定期的・継続的な調査と研究を行う

これまで取り組んできた行政における枠組みを越え、市民はもとよりNPO法人やボランティア団体、民間企業、教育研究機関などとも幅広い協力・連携を図ることによって、多様な側面から、未指定も含めた潜在的な小樽文化遺産の調査・研究を行う。



### 守る－文化遺産の特性に沿った保存と活用を図る

小樽文化遺産の現状と課題の把握に努め、保存管理を行うとともに、調査・研究により見出された文化遺産の存在と価値を、地域全体で共有するよう努める。活用の推進にあたっては、小樽文化遺産を活用した地域の魅力発信や観光振興など、まちづくりに活かす。



### 伝える－文化遺産を支える人々の輪を広げる

小樽文化遺産の価値を見出し、保存管理の必要性について市民に周知するため、「小樽文化遺産」をキーワードとした情報発信やデータベースの充実と活用を推進する。構想そのものを含め、確実に情報発信を行える体制を整備し、ネットワークを広げるよう努める。



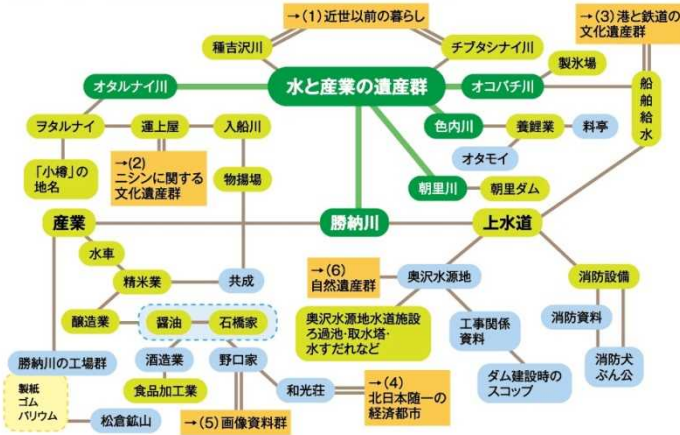
### 使う－文化遺産を身近な資源として活用を図る

本構想の理念を踏まえ、市全体として保存管理を実践し「小樽文化遺産」を活かした魅力あるまちづくりを推進する総合的な保存活用に係る仕組みづくりを検討するとともに、将来にわたって文化遺産を地域全体で活用する機運を醸成する。



## 関連文化財群

ストーリー⑦水と産業の文化遺産群 相關図



ストーリー⑦水と産業の文化遺産群に含まれる小樽文化遺産の例



醸造業で財を成した野口家の居館「和光荘」(大正11年造)



奥沢水源池水道施設「階段式溢流路(水すだれ)」(大正3年造)



火災現場で消防士を手助けした「消防犬ぶん公」(昭和初期)

小樽の歴史文化・自然に関する膨大かつ多種多様な小樽文化遺産を広い視野で捉え、文化遺産をとりまく関係性、相関性をもとに複数の文化遺産を関連付けて結び付け、小樽の歴史文化をめぐる8つのストーリーに整理した。

なお、各文化遺産はストーリーを超え相互に関連し合うため、構想ではその様子を相關図で示した。

### ストーリー

- ① 近世以前の自然、地形を生かした暮らしの文化遺産群
- ② ニシンとともにやってきた文化遺産群
- ③ 北海道の玄関として築かれた港と鉄道の文化遺産群
- ④ 北日本随一の経済都市の面影を伝える文化遺産群
- ⑤ 歴史を伝える画像資料群
- ⑥ 小樽の風土を象徴する自然遺産群
- ⑦ 水と産業の文化遺産群
- ⑧ 民の力・協働と互助の文化を示す文化遺産群

## 策定後の成果 (見込まれる効果)

① 小樽文化遺産データベースの構築  
 構想策定作業を通じて得られた調査結果と、従来の研究成果を合わせた文化遺産についての膨大な情報を集積し、「小樽文化遺産データベース」としてまとめた。集積したデータは今後の文化財保存活用事業の基礎にするとともに、広く公開し、まちづくりのあらゆる局面での活用が望まれる。



② 文化遺産に対する市民意識の成熟  
 構想策定を通じて、市内にある潜在的な文化遺産の存在が明らかになった。これらの周知活動は、多様で特色のある歴史と多くの文化遺産に囲まれて生活しているという市民意識の充足・成熟につながる。さらに、ふるさとに対する誇り・愛着の醸成は、伝統文化の継承者育成も期待される。



③ 文化遺産と生きるまちづくり  
 小樽文化遺産の新たな掘り起しや付加価値の創出を通じ、文化遺産を活かした魅力あるまちづくりを促進する。小樽文化遺産を身近な資源として捉え、保存活用に携わる多様な主体がそれぞれの役割を活かし、お互いに補完しながら連携することで、道内外に向けた小樽の魅力発信を推進する。

